

群馬県立赤城特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等					総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	学校公開を年間3回実施している。	教務	A	A	A	年2回の学習参観、学習発表会等、保護者に対して3回の学校公開を実施した。また、地域等については作品展示等とおおし情報発信した。		感染症等の流行や各院内教室在籍の児童生徒の実態・状況をふまえて、学校公開の適切な時期・方法等を柔軟に検討・実施している。	
		学校案内や学校Webページ、学校からのたより等で情報発信を行い、本校の教育活動に対して保護者・病院関係者の80%以上から肯定的な評価を得ている。	教務	A	A	A	病院関係者、保護者、学校職員共に95%以上の肯定的な評価を得た。お便りやWebページ等の他に、日頃から病院関係者や保護者と丁寧に関わることで教育活動への理解を得られた。	自治会主催のまち歩き探検行事において学校見学をしたり、さらにスライドを用いて校長より学校を紹介してもらったことで、周知につながった。	病院関係者の中に僅かに「わからない」と回答している方がいるので、学校の教育活動に興味・関心をもっといただけるよう、引き続き情報発信に努める。	
		学校病院連絡会議や支援会議等において、児童生徒の病状、学習状況等について、保護者、病院、前籍校と十分な情報共有ができた85%以上の教職員が実感している。	部主事	A	A	A	保護者や病院関係者から9割程度の評価を得た。児童生徒、保護者の話を丁寧に聞き取り、前籍校や病棟との情報共有を行いながら、各計画に反映させ、指導を活かすことができた。	朝の申し送りや学校病院連絡会議等で話し合いが行われているが、突発的な事案に対応するのに時間がかかる。相談があれば病院も協力するので気軽に相談してほしい。	児童生徒の状況によっては、医療側との情報共有や連絡・相談の方法が統一されていない場合があった。互いの立場をより理解しながら、情報共有していく工夫が必要である。	
2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について関係機関(病院・前籍校等)・保護者の80%がそれらが有用であると感じている。	教務	A	A	A	保護者全員が「役に立った」と回答している。また、前籍校へのアンケートでも、回答者全てから「参考になった」という回答を得た。面談等を通して保護者に十分な説明ができた。	今後、病状が許すようであれば、より多くの地域の行事に参加することを検討してほしい。また行事の際には地域住民や保護者の声を伝える方法としてQRコードを読み取ることによるアンケートを取り入れたらどうか、内容を自治会にも伝えて欲しい。	今後、病状が許すようであれば、より多くの地域の行事に参加することを検討してほしい。また行事の際には地域住民や保護者の声を伝える方法としてQRコードを読み取ることによるアンケートを取り入れたらどうか、内容を自治会にも伝えて欲しい。	令和8年度から校務支援システムで「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成することとなる。校内体制を整えながら、保護者や関係者に引き続き丁寧に説明を行っている。
		前籍校や地域の人たちとの交流を児童生徒の必要性を見取ながら計画し、その取組について保護者・前籍校関係者・地域の人たちの80%から満足を得ている。	渉外	A	A	A	保護者・本校職員から9割前後の評価を得た。地域交流では、病院と隣接する施設や校外学習、スポーツ等を通じて、さまざまな体験をすることができた。また、前籍校と直接交流や間接交流(オンライン)を通して楽しく活動し、親睦を深めることができた。		引き続き、児童生徒の実態やニーズを的確に把握し、交流活動を計画・実施できる体制づくりに努めるとともに、心の病を抱える児童生徒が増加している現状を踏まえ、教員間で共通理解を図りながら、より一層丁寧な対応に努めていく。	
		「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を転入時等に共有したり、連携カードブックの関連ページを活用したりすることで、関係機関(病院、前籍校等)及び保護者に対して、指導・支援の目標や活動の様子、評価等について丁寧に説明を行う。	教務	A	A	A	保護者全員が「役に立った」と回答している。また、前籍校へのアンケートでも、回答者全てから「参考になった」という回答を得た。面談等を通して保護者に十分な説明ができた。			
3 児童生徒の実態に応じて、居住地域や地域の人々との交流活動を推進していますか。	3 児童生徒の実態に応じて、居住地域や地域の人々との交流活動を推進していますか。	担任等と連携して前籍校との交流を進めるとともに、係を中心に地域の人たちとの交流方法を工夫していく。児童生徒のニーズ、実態や状況に応じて、保護者への趣旨説明、活動後の報告などを丁寧に丁寧に行う。また、交流のねらいを設定し、交流相手との共通理解を図っていく。	渉外	A	A	A	担任等と連携して前籍校との交流を進めるとともに、係を中心に地域の人たちとの交流方法を工夫していく。児童生徒のニーズ、実態や状況に応じて、保護者への趣旨説明、活動後の報告などを丁寧に丁寧に行う。また、交流のねらいを設定し、交流相手との共通理解を図っていく。			
		担当等と連携して前籍校との交流を進めるとともに、係を中心に地域の人たちとの交流方法を工夫していく。児童生徒のニーズ、実態や状況に応じて、保護者への趣旨説明、活動後の報告などを丁寧に丁寧に行う。また、交流のねらいを設定し、交流相手との共通理解を図っていく。	渉外	A	A	A	担任等と連携して前籍校との交流を進めるとともに、係を中心に地域の人たちとの交流方法を工夫していく。児童生徒のニーズ、実態や状況に応じて、保護者への趣旨説明、活動後の報告などを丁寧に丁寧に行う。また、交流のねらいを設定し、交流相手との共通理解を図っていく。			
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	4 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	園、小・中学校、高等学校等へ情報を発信する。また、病弱・身体虚弱教育に係る研修・相談会を実施し参加者の90%以上から満足を得ている。	渉外 専門アドバイザー	B	A	A	「病弱児教育支援センターあかぎ」等のリーフレットを作成し、センターのホームページに掲載するとともに、研修会等を通して配付し周知を図った。また、病弱・身体虚弱教育に係る研修会を実施し、40名以上の参加があり、参加者アンケートにおいて90%以上の満足の評価を得た。病弱児教育支援センターとしての役割や支援の視点を発信し、地域の教員とつながる機会となった。	新設された群馬病院では多くの生徒が在籍している。今年度は人員配置や支援体制を確立するなど苦勞も多かったが、これが全国的に見ても先進的な取り組みになることは間違いない。今後全国でも課題意識が高まっていく契機になると考えられる。貴重な資料となるので、是非データとして残し、行政にも報告して欲しい。	既存のリーフレットや学校ホームページ等を活用し、園・学校を中心とした関係機関への情報発信を継続して行う必要がある。また、研修会や連絡会等の機会を通して、本校が担う病弱・身体虚弱教育の役割や相談の入口を明確に伝え、早期に相談につながる体制づくりを進めていくことが課題である。	
		県内全域を対象とした病弱・身体虚弱教育に関する相談活動を50件以上行っている。	渉外 専門アドバイザー	B	A	B	本校からの転校ケースを中心に、小・中学校、高等学校および医療機関等からの電話や来校、訪問等による相談に対し、助言・援助・情報提供を71件(12月末時点)行った。また、指定外病院における学習支援については1件の相談対応を行い、学びのサポートに係る助言を行った。	また、本人と保護者が専門アドバイザーの活用を希望しても、前籍校が不要と判断した場合に活用できない場面があるので、改善して欲しい。	県内全域を対象とした相談活動を継続する中で、センターあかぎとしての役割や支援について校内で共通理解を図り、相談内容に応じた適切な助言・援助が行える体制を整えていくことが課題である。さらに、指定病院および指定外病院への関与について、学校の支援体制を踏まえながら、支援の範囲や関わり方を整理していく必要がある。	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	個に応じた学習指導について保護者の85%から満足を得ている。	部主事	A	A	A	本人、保護者から願いを聞き取り、前籍校から学習や生活の引き継ぎを的確に行い、切れ目のない指導を心掛ける。体調に応じて指導・支援を進め、児童生徒の変容について、保護者に丁寧に説明する。	群馬病院院内教室も出て、様々な病気の児童生徒に対して幅広く指導を行ってみたい、とてもありがたい。	保護者からは9割以上の高い評価を得ている。本人、保護者、前籍校や医療からの引き継ぎ、また本校での学習や生活の様子を丁寧に転出先に伝えることを今後も継続していきたい。	
		自立活動の指導について、「個別の指導計画」をもとに、保護者・病院関係者に説明を行い、85%から理解を得ている。	部主事	A	B	B	児童生徒の情報共有を元にした自立活動の個別の目標や手立てを検討し、指導計画を作成した。保護者との面談や学術等での自立活動の経過や評価について、分かりやすく伝えるようにした。	切れ目のない指導を意識するあまり、学習空白を埋めることを優先しがちであるが、子供の実態に合わせた指導が必要になる場合もある。学ぶことの楽しさが実感できると、児童生徒の成長につながる。実態に応じた指導をしていただきたい。	病棟の評価は具体的な数値項目に届かなかったの、自立活動の指導内容や課題について、学術や研修会を通して情報共有することをより意識していきたい。	
		児童生徒同士が関わり合い、主体的に協力して取り組める活動を年間5回以上実施している。	部主事	A	A	A	みんなの園工や合同特別活動、スポレク、校外施設見学、合同授業などにおいて、児童生徒同士が教室を越えて、主体的、意欲的に関わり合いながら協働できる活動を実践している。		今後もICTを有効に活用しながら、児童生徒が実態に応じて参加し、関わり合いの中で主体的に学びを深め広げられるよう、年間行事計画の中で機会を設定していく。	
	6 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	6 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	授業力向上のため、教員相互の授業参観や授業研究会、各種研修会等に参加することにより、教員の80%以上が授業改善に努めている。	教務	A	A	A	8割近い評価を得ているが、2割以上が「あまりできていない」という評価である。指導計画、評価規程、評価を個別の実態に応じて検討しているところが大きいことが一因だと思われる。	他県では一度転入すると卒業まで在籍することが多いが、本校高等部では転入した生徒が前籍校に戻れる仕組みが整っていて素晴らしいと感じた。また籍を移さずに対面での授業を支援する「学びのサポート」も用意されていて、生徒が選択できるようになっていることも感心した。これらの取り組みをデータとして残していくべきである。	病弱教育における教科指導の専門性を引き続き高めたい。発達障害や精神疾患の児童生徒の増加に伴い、発達特性や心の理解を深めながら、授業改善に励んでいく。
			教員の80%以上がタブレット端末等のICT機器を有効活用し、クラウドサービスを利用するなどの個に応じた学習支援を行っている。	教務	A	A	A	ICTを活用した会議及び連絡掲示板を運用することで、普段から活用スキルを身に付ける。また、ICT係による情報発信や研修の機会を充実させたり、日頃から、教員間でICT教材や具体的な活用方法等の情報共有をする。		効果的なICT活用について、引き続き、情報発信や研修の充実を図る。個々の児童生徒の実態に合わせたタブレット等の効果的な活用に関する授業実践を学校全体で推進していく。
			児童生徒の病状、実態に応じ、各教科の年間指導計画を見直し、指導内容の精選を図る。また、指導計画や評価規程について確認し、個別の実態に対応できるように指導の改善に役立てる。	部主事	B	A	B	8割近い評価を得ているが、2割以上が「あまりできていない」という評価である。指導計画、評価規程、評価を個別の実態に応じて検討しているところが大きいことが一因だと思われる。		個別の状況に応じた検討や対応を継続するとともに、転入時や学期ごとの評価の際に、年間指導計画、評価規程、評価について、再確認や共通理解を図っていく。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	児童生徒に対し、いじめ等に関するアンケートを年3回実施し、いじめ防止基本方針などに沿って対応している。	生徒指導	A	A	A	各学期に1回、学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見に努めた。いじめの認知は、生徒の訴えに寄り添っておこない、意向を確認して対応した。		いじめの認知については、引き続き軽微なものであっても疑いの段階で認知し、被害生徒及びその保護者の意向を確認した上で、いじめの事実を確認する。いじめの早期発見に向け、学期に回以上定期的なアンケート調査を実施していく。	
		児童生徒に関わる教員と病院関係者が、子どもの配慮事項についての会議を年間10回以上もち、共通理解をしている。現場から管理職への報告・連絡・相談が行われている。	保健	A	A	A	定例会議だけでなく、配慮が必要な児童生徒の対応では臨時に支援会議を行い、医療との連携を密に行っている。また、児童生徒には入退院時にアンケートや聞き取りを行い、気持ちに寄り添う支援を行うよう心掛けた。		医療・家庭と連携し、児童生徒の心身の健康状態の情報共有を図り、安心した学校生活ができるようになっている。また、異変に気がついた時は連絡・報告・相談を心がけていく。	
		感染症対策では、感染状況に合わせて柔軟に対応していく。あらゆる感染症について、県や病棟と連絡を密にしながら、その時に合った対応を行えるように、教員の80%以上が心がけている。	保健	A	A	A	9割以上の評価を得ている。基本的な感染症対策を徹底し、職員も常に体調管理を行った。また、自分自身だけでなく家族からの感染にも留意し、管理職・養護教諭に相談し、別室勤務を行った。		感染に対し抵抗力の少ない児童生徒と接しているという気持ちを忘れず、基本に忠実な感染症対策を行い、体調管理を行っている。	
8 危機管理体制が確立され、緊急時の備えができていますか。	8 危機管理体制が確立され、緊急時の備えができていますか。	すべての教職員が火災、地震、不審者対応、必要に応じて洪水対策、児童生徒の緊急搬送についての各訓練を年間1回行い、適切な対応をしている。毎月、安全点検を行い、管理職に報告している。	保健	A	A	A	各種避難訓練について、臨機応変に対応できるように、係、各教室で検討し、改善を図ることができた。外部の講師を呼び訓練を受けた。病棟とも連絡を取り、連携を深めることができた。		緊張を保ちつつ訓練を繰り返し行う。危機管理の意識を常にもち、病棟と連携の意識を高め、訓練を行う。	
		すべての教員が、キャリア教育の視点から系統的な指導を行っている。	進路指導	B	A	A	概ね良い評価を得ているが、児童生徒のキャリア発達を意識した指導、ということをより強く発信していく必要がある。		キャリア教育を自立活動、教科・領域の関係、授業での取り入れ方などを具体的に示して周知できないか、検討していく。	
		外部講師を活用した研修を行ったり、保護者や関係機関と進路や将来必要力について話し合ったりする機会を、年2回以上設けている。	進路指導	A	A	A	研修の機会には印象に残りやすいため教員のアンケート結果は比較的良かったが、外部アンケートからは、面談などで将来について話をする余裕がなかなかない実態もかかえる。		引き続き、研修の機会を設けていく。アンケートで意見のあった、小学部段階でのキャリア教育や、研修の運営の仕方についても再検討する。	
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	行事等を活用して児童生徒に多くの経験を積ませるとともに、それが児童生徒のキャリア発達に応じたものになっているか、各教員が検討しやすい環境を整備する。	進路指導	B	A	A	概ね良い評価を得ているが、児童生徒のキャリア発達を意識した指導、ということをより強く発信していく必要がある。		キャリア教育を自立活動、教科・領域の関係、授業での取り入れ方などを具体的に示して周知できないか、検討していく。	
		外部講師等を活用し、進路やキャリア教育に関する生徒向け授業や、教員向け研修会などの機会を設ける。また、児童生徒の将来必要力について、支援会議や連絡会議などの場で話題にしよう。	進路指導	A	A	A	研修の機会には印象に残りやすいため教員のアンケート結果は比較的良かったが、外部アンケートからは、面談などで将来について話をする余裕がなかなかない実態もかかえる。		引き続き、研修の機会を設けていく。アンケートで意見のあった、小学部段階でのキャリア教育や、研修の運営の仕方についても再検討する。	
VI 特別支援学校の教職員としてふさわしい行動をしていますか。	11 病弱特別支援学校の教職員としてふさわしい行動をしていますか。	年度初めの職員会議で、服務規律行動計画を周知する。GWや長期休業に入る前に、情報提供や服務規律チェックを行うことで、服務について意識できる機会を設ける。また、服務規律たよりの発行、ミニ研修の実施により、全職員が自分事と捉えて服務規律について振り返れるようにする。	服務規律委員会	B	A	B	児童生徒や保護者への対応においては、複数で適切に行っている。また教職員同士も連携・協力を意識しながら教育活動を行っている。一方で充実した教育活動を実践するのに必要な自身の健康管理については十分でない職員が複数見られた。		健康管理については、管理職に限らずお互いに相談できる雰囲気づくりを行っている。生成AIの活用やネットワークによる情報のやりとりの増加に対して、研修や周知なチェック等を通じて活用方法を周知したり、情報漏えいがないように徹底していく。	